

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

原北中学校 学校通信



令和 3年 5月 7日 第2号
福岡市早良区小田部7-11-1
電話 092-851-3344
発行者 校長 福崎 浩信



共育を推進していきます！

新緑が鮮やかな季節になりました。我先にと新芽を出そうとする木々を見ていると、まるで子どもたちのように見えてきます。改めて、子どもたち一人ひとりに寄り添い、個に応じた指導の重要性を身の引き締まる思いで感じています。

子どもたちの健全な成長のために、これからも学校と家庭、地域の方による「共育」を力強く推進していきたいと思えます。

本年度の安心メールの登録者数は4月30日現在634世帯です。子どもたちの安心・安全のために今年も機を逃さずメール配信をしていきます。未登録の方は随時、登録できます。加入率は、1年生96.9%、2年生は93.8%、3年生は93.1%、全体で、94.6%となっています。子どもたちが安心・安全のもと、文武両道で頑張ってくれることを願っています。保護者の皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い致します。

安心メール協賛会社3社のおかげで連絡が可能になっています。

「原北中学校安心メール」は(株)テクノミックスが提供するメール配信システムで運用されています。

学校安心メールを支えて頂いている協賛会社は、大型ショッピングセンター「ゆめタウン博多」様と「個別指導塾ジャンプアップ」様と「学校法人麻生塾ASO高等部」様です。

メールシステムの利用料は、協賛会社様により無料ですが、2ヶ月に一度協賛している旨のお知らせメールを配信します。(1回あたり2~4円程度の受信料が必要です。)

なお、協賛会社にアドレス情報が開示されることはありません。

本校では、この「学校安心メール」を、行事の連絡や生徒の安全に関する情報など、緊急に情報を伝える際に利用させていただいており、保護者・地域の方々からも大変頼りにされております。協賛企業である3社の代表者様に感謝申し上げます。

ネイティブスピーカー（NS）の先生を紹介します。

Elijah Guitberg イライジャ・ギトバーグ

授業の有無にかかわらず、配置日には、8時30分から16時30分まで勤務します。

クロームブックを持ち帰り可能にする条件整備が始まりました！

令和3年度は、昨年度に整備された一人一台端末を家に持ち帰り、家庭学習を自分のペースで進めたり、もっと知りたいことを調べたり、明日の発表の準備をしたり、学びを更に充実させる取り組みが始まります。

夏の訪れを感じる季節となりました。

本年度より、制服の移行期間などの衣替えのお知らせは行いません。気候や体調に応じ、自分自身で自己管理能力や主体性を育むようにします。儀式的行事や学校行事などの際については、生徒へ事前に連絡します。また、昨今の状況を踏まえ、登下校・校内ともにジャージ・体操服の使用を許可しています。

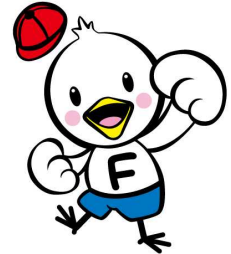
体育大会の練習も本格化するこの時期、服装や水分補給など家庭においてもお子様と一緒にその大切さや管理について話し合っ欲しいと思えます。

なお、令和3年からは環境省からのクールビズ実施週間の呼びかけは廃止されるようですが、取り組み自体は続きますので5月1日から9月30日の期間を目安とした、本校職員の服装についてもご理解をお願いします。

体育大会に向けて

2年ぶりの体育大会の練習が始まりました。4月26日の集会でブロックの色が決定しました。ブロックリーダーによる練習も家庭訪問時期から本格化し、どのブロックも、これまでのどの体育大会よりもすばらしいものにしようと張り切っています。リーダーとしての「使命」と「責任」をしっかりと持ち、ブロックを一つにまとめ上げてくれるものと信じています。

	赤ブロック	青ブロック	黄ブロック
3年	1組・2組	3組・4組	5組・6組
2年	1組・2組・4組	3組・5組	6組・7組
1年	1組・3組	2組・4組	5組・6組・7組



道は開ける(成せばなる) 「教科書で教えられる教師になろうと誓った授業参観」

『200円をもって買い物にいきました。はじめの店で95円のかんづめを買いました。次の店で30円のノートを買いました。帰りに30円でおやつを買いました。お母さんにいくらおつりをわたしたでしょうか。』という問題が出された。

問題が出されると直ぐにAが挙手した。先生に、「前へ出てやってごらん。」といわれて黒板に次のように書いた。

$$200 - 95 - 30 - 30 = 45 \quad \text{こたえ} \quad 45 \text{円}$$

さらにBが「先生、もっと違う仕方できました。」と挙手した。先生に、「前へ出てやってごらん。」といわれて黒板に次のように書いた。

$$95 + 30 + 30 = 155 \quad 200 - 155 = 45 \quad \text{こたえ} \quad 45 \text{円}$$

その間、Cは指をおりながら考えていた。その子もついに、「はいっ！できました。」と叫んだ。だが、担任は、「前へでてやってごらん」とはいわずそばへ寄っていき、「見せてごらん。」とノートを手にした。

そして、「どうもわからんな。もう一度考え直してみい。」とノートを返した。

しかし、その子は、「考え直せうたかて、これ以上考えられるかい。」といったままやろうともしない。授業が終わり、子どもたちは、みんな教室を飛びだしていても、その子は出ようとしなくて「もう算数なんかやったるかい」と怒っていた。

見かねてのそばへ行ってノートを見ると次のように書いてあった。

$$100 - 95 = 5 \quad 100 - 30 = 70$$

$$50 - 30 = 20 \quad 5 + 20 + 20 = 45 \quad \text{こたえ} \quad 45 \text{円}$$

『説明してくれるかな？』というCは、「200円あずかっていたというけど200円玉なんてない。しかも、この買い物は同じ店でしたんとちがう。はじめの店で95円のかんづめを買うときには100円だした。そしたら5円のおつり。次の店で30円のノートを買う時にはもう一つの100円玉を出す。そしたら70円のおつりや。70円いうたら50円玉と10円玉2つや。帰りに30円のおやつを買うときには50円玉を出したんや。そしたら20円のおつりやろ。ポケットには5円と20円、あわせて25円残っているやろ。こんどのおつりが20円やろ、一緒にして45円。どこがおかしい？」といった。』

再生・処理の教授に止まることなく、必然性・有用性といった概念形成の教授の重要性と、授業で真に大事にしなければならないことを学んだ初任の頃に参観した授業でした。

道は開ける(成せばなる) 『『家に心の灯を』より・・・東井義雄先生』

5年生の男の子が、算数のテストで98点をとりました。彼は、お母さんを喜ばせようと思ってとんで帰りました。「お母さん、算数98点とった！」と叫んで、得意になって答案を見せました。「お前は、あわてもんだから、こんな簡単な問題のところ、バツもらっている。なぜ、百点をとらんのや。」喜んでもらえると思ったのに、叱られてしまい、残念でなりません。それから、数日して、百点をとることができました。大喜びで、とんで帰りました。「お母さん、百点がとれた！」と得意になって、答案を見せました。「今日は問題がやさしくて、誰も百点やったんやろ？」あまりにも冷たい言葉でした。